






(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動報告書

教育・研究活動名	安心して暮らせる環境づくり (1)難民支援活動および啓発		
申請大学・高校等名	大学・高校等名	兵庫県立尼崎小田高等学校	
	活動グループ名	国際探求「members of a society」	参加学生等人数 6人
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等名称	国際探求学科	
	責任者氏名	二森 正人	連絡先電話番号
	E-mail		
協働する市民活動団体 及び代表者名	団体名	尼崎市国際交流協会	
	代表者氏名	理事 古川剛	連絡先電話番号
	E-mail		
教育・研究活動目標	地域住民が安心して暮らせるまちづくり、つまり高い人権意識を備えたまちづくりを目標に掲げる。 難民が生み出される原因を解消、また難民を積極的に受け入れることを最終目標にするが、今年度の目標として、難民問題を啓発する「かるた」を市内の小学生に配ることと、難民問題を広く知ってもらうため、イベントを開催して啓発・および人をつなぐ。		
活動内容及び実績、評価	<p>●活動の内容</p> <p>難民支援活動を行っている団体の職員の方から話を伺い、難民問題をより深く理解し、その理解に基づいて、誰でも楽しめる「かるた」を作成し、尼崎市市内の子どもや大人を対象に啓発活動を行った。また、学んできたことを、校内外の発表会や FM あまがさきの放送で伝え、難民問題を広く知ってもらった。</p> <ul style="list-style-type: none">・4月～9月 文献講読および活動計画作成・10月19日(水) 難民事業本部関西支部の中尾様にオンライン・インタビューインタビュー以降、カルタ作成およびワークショップ開催準備・11月5日(土) SDGs フェア in Oda のワークショップにて、カルタを実践した。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"></div> <p>・1月17日(火) JR 尼崎駅付近で募金活動を行い、集まった 55,441 円を UNHCR に募金した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"></div> <p>・1月下旬 作成したカルタを、尼崎市市内の小学校(班員の出身小学校)に配布した。</p>		

- ・1月28日(土) 探究活動の成果発表として、神戸市外国語大学の学生に向けて英語で発表し、質疑応答を行った。



- ・2月1日(水) 探究活動の成果発表として、校内合同発表会で英語及び日本語で発表し、助言を得た。
- ・2月4日(土) 小田高リサーチ生徒研究発表会にて、「難民支援活動-地域の人たち、子どもたちにもっと知ってもらうために-」と題し、自分たちの活動を通じて学んだ「難民問題の現状」、「活動の成果」等を日本語で発表し、多方面から助言を得た。



(2月1日の様子)



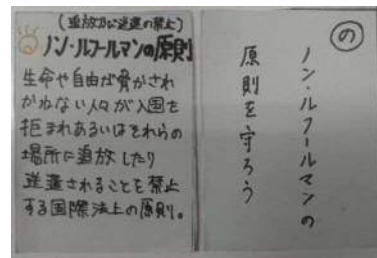
(2月4日の様子)

- ・3月14日(火)収録 FM あまがさきみんなのあまがさき情報局にて、活動内容の収録を行い、3月23日(木)に放送された。



●想定していた活動成果に対する達成度合い
(達成できたこと)

- ・イベントの参加者は年齢層が広がったため、字が読めないほど幼い子どもの場合は取り札の絵を見たり、大人の方は取り札の裏の解説を見たりと、かるたを通して難民問題を学ぶことができた。



(今後、さらに取り組んでいきたいこと)

- ・活動を通して、私達が難民問題に対して取り組めることは、難民問題をもっと学ぶことと感じた。
- ・難民問題を理解するとともに、難民を減らす方法だけでなく、なぜ難民が生まれるのか、難民問題について私たちがこれから何を取り組めばよいのかを調べていきたい。

	<p>●学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化</p> <p>(高校生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難民かるたを作る際に文献を読んだり、難民についての話を教わったりすることで、自分たちの知識も増え、難民についてより知ることができた ・イベントなどに向けて、自分たちで準備を計画立ててすることができた。 ・募金活動を通していろんな人に応援してもらったり、募金をしてもらえたりして、やりがいを感じることができた。 ・かるたを作る際に、文献を読むだけでは知識が足りず難しいと感じたが、難民事業本部の方のお話を伺い、実際に行ったおられる難民支援を知ることができた。 ・これからの日本(尼崎)が取り組むべきこととして、難民問題を学ぶ環境を整えるが必要だと考えている。例えば、総合学習や道徳の授業で難民を題材にして学習することや、もつといろいろな地域の学校に難民カルタを配り遊んでもらったり、SDGsの活動を積極的に行ったりすることなどが考えられる。 <p>(教員)</p> <p>高校生の活動をサポートして下さる団体(難民事業本部、国際交流協会など)から支援していただくことで、日頃から地域の活動を支えておられる方の思いや仕組みを知ることができた。</p> <p>(市民活動団体)</p> <p>高校生が難民問題に関心を持つことを歓迎しており、難民に関するワークショップやイベントなどを案内していただいた。今後は、外国にルーツがある人全体へのアプローチも行ってほしいと要望を受けた。</p>
--	--

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします

難民支援

国際探求学科

① 企画のテーマ

難民問題を身近なものにし、難民の力になろう

② 企画の目的・目標

— 難民支援をテーマにした理由 —

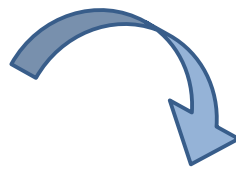
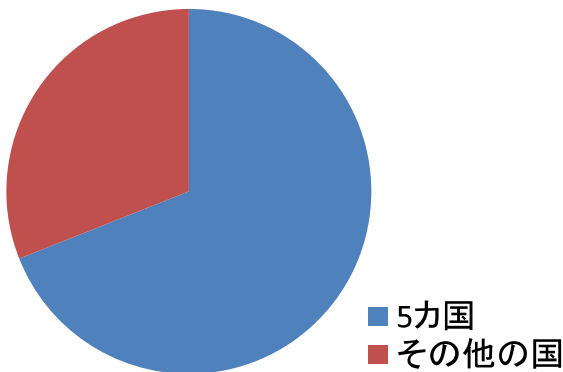
- 去年、先輩の難民支援の活動である募金活動に参加し、興味を持った
- 世界には多くの難民がいることを知り、まずは、自分たちができることの範囲内で難民の力になりたいと思った

—実現したかったこと—

- ① Before 現状の難民問題について知らない人が多い
After 難民への関心が高まり少しでも現状が改善される
- ② Before 世界中には多くの難民が存在している
After 活動に興味を持ってもらうことで難民支援の活動を広める

—現状問題—

難民の出身国の割合
(2021年グローバルトレンドレポート)

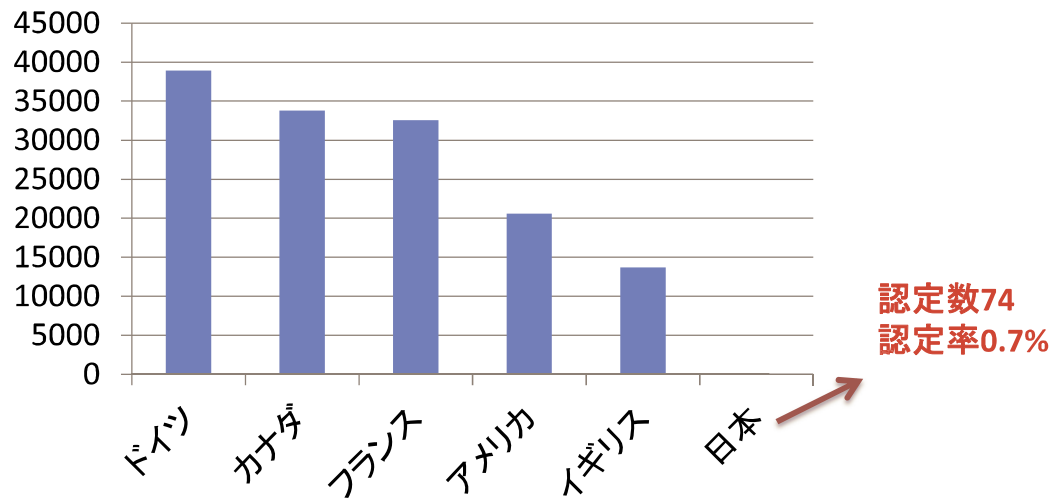


難民出身国の2/3以上(69%)
5カ国

1. シリア : 680万人
2. ベネズエラ : 460万人
3. アフガニスタン : 270万人
4. 南スーダン : 240万人
5. ミャンマー : 120万人

世界難民が8,930万人→41%が子ども

難民認定数の各国比較 (2021年認定NPO法人難民支援協会)



現在外国人の難民申請者が増えているが、働くことができない、公的支援が手薄などの理由で収容所に入る人々がいる。

—難民問題が生まれる原因—

- 紛争・戦争・革命・クーデター・自然災害など大きな脅威、あるいは人命を脅かす人災や災害が起こること
- ロシアとウクライナ間での戦争では1,700万人の難民が出ているなか、日本では74人しか申請が通っていない→難民問題が生まれる原因。

④ 企画の実施結果

- 5/28 企画作りワークショップ
- 6/22 尼崎市協働推進課の方と活動計画
- 6/25 他校と交流・発表
- 7/29 SDGsフェアの準備
- 10/19 ①難民事業本部の方のお話
- 11/5 ②SDGsフェア in ODA 2022
- 1/17 ③募金活動
- 1月中 ④地域の学校に、かるた配布

①難民事業本部関西支部の職員の方のお話

難民をUNHCRと国連で資金を出し合って支える

<UNHCRの活動>

難民保護・難民支援をするための資金を集める国際機関

UNHCRとは・・・？

(国連難民高等弁務官事務所)

第二次世界大戦後の1950年、避難を余儀なくされたり、家を失った何百万人ものヨーロッパ人を救うために設立された。

難民を支援する基本的で重要な役割を担っている

<難民キャンプ>

難民が避難する場所

自国から逃れてきた難民の安全を保障し、難民に対して、住む場所だけでなく、食べ物や水、衣類、医薬品、生活用品を提供している。

テントを使用したものや、木や竹、布やビニールで作られた簡易的な物など形態は様々な種類がある。

難民キャンプとは・・・？

紛争や迫害によって難民が発生したときに難民受け入れ国の要請に応じて、支援団体が設置する難民の滞在施設です。

②SDGsフェア in ODA

日時：11月5日(土)

場所：小田南生涯学習プラザ

活動内容：難民かるた・募金

参加対象者：地域の方々



参加賞：タイビンココナッツクラッカー
(ベトナムのお菓子)

難民かるた(読み札)

え 栄養不足の“腹水難民”

た 対等な教育課程を受けるべき

へ 減らそうよ 嘆く難民 みてられない

も もったいない その食べ物が 飢餓を救う

る 累計で 9,000万人の難民が 存在する

難民かるた(取り札)



水問題
 世界人口の半数以上が水道を使えるようになった今なお、安心して飲める水が身近になく池、川、湖、井戸の水を飲んでる人が6億6300万人いる。

流民
 故郷を離れてさまよい歩く人々。
 類語: 難民

難民認定申請
 現在日本に在留している方が人種、宗教、国籍特定の社会的集団の構成員であること、迫害を受ける恐れのある方を保護するために、難民の認定の申請をすることを目指す。

(国際連合基金)
ユニセフ
 1946年12月11日に設立された国際連合総会の補助機関。
 子供の命と健康を守り、健康に成長するために必要な物を十分に手に入れるようになることを目指している。

(重放及び送還の禁止)
ノン・ルフールマンの原則
 生命や自由が脅かされかねない人々が入国を拒まれあるいはそれらの場所に追放したり送還されることを禁止する国際法上の原則。

(国連難民高等弁務官事務所)
UNHCR
 第二次世界大戦後の1949年、避難を余儀なくされたり、家を失った何百万人ものヨーロッパ人を救うために設立された。半世紀経った今でも世界中の難民の保護者は次第に取り残されている。

(持続可能な開発目標)
SDGs
 2015年9月26日に国連総会で採択された、持続可能な開発のための17の国際目標。
 Sustainable Development Goal

難民キャンプ
 難民の滞在施設
 安全を保障し、住む場所、食べ物、水、衣類、医薬品、生活用品などを提供してくれる場所。

世界難民の日
 2000年12月9日、国連総会で毎月6月20日を「世界難民の日」とすることが決議された。

腹水
 タンパク質の摂取不足により、血液中の水分が血管外に漏出して「腹」に水がたまった状態。

(重放及び送還の禁止)
ノン・ルフールマンの原則
 生命や自由が脅かされかねない人々が入国を拒まれあるいはそれらの場所に追放したり送還されることを禁止する国際法上の原則。

①
 ノン・ルフールマンの原則を守ろう

③募金活動

日時：1月17日(火)16時45分～18時15分

場所：JR尼崎駅

集まった金額：55,441円(UNHCRへ寄附)



④難民かるた配布

難民かるたを地域の学校へ配布

対象学校：立花西小学校
浦風小学校
七松小学校
園和小学校
難波の梅小学校
杭瀬小学校

Q. なぜこの学校になった・・・？

A. 班員の出身校

④ 企画の成果と評価

- イベントの参加者は年齢層が広がったため、字が読めないほど幼い子どもの場合は取り札の絵を見たり、大人の方は取り札の裏の解説を見たりと、かるたを通して難民問題を学んでいた
- 活動を通して、私達が難民問題に対して取り組めることは難民問題を学ぶことだと感じた
- 難民問題を理解するとともに、難民を減らす方法だけでなくなぜ難民が生まれるのか、難民問題について私たちがこれから何に取り組めばよいのかを調べていきたい

～これからの日本が取り組むべきこと～ (尼崎)

難民問題を学ぶ環境を整える

例えば...総合学習や道徳の授業で難民を題材にし学習する
もっと色々な地域の学校に難民カルタを配り遊んでもらう
SDGsの活動を積極的に行う

行政面

例えば...難民を受け入れることができる環境を整える
戦争をしないなど、難民を生む原因になることはしない

⑤ 事業を通じての成長

- 難民かるたを作る際に文献を読んだり、難民についての話を教わることで、自分たちの知識も増え、難民についてより知ることができた
- イベントなどに向けて準備を計画立ててする
- 募金活動を通していろんな人に応援してもらったり、募金をしてもらえてやりがいを感じることができた
- かるたを作る際に、文献を読むだけでは知識が足りず難しいと感じた

ご清聴ありがとうございました

